

妊娠に気づかず、くすりを飲んでいました!!

妊娠の初期症状をほかの病気と勘違いして、くすりを飲んでしまったというママは多いです。同じくすりでも赤ちゃんがくすりの影響を受けやすい時期と、それほどでもない時期があります。妊娠15週あたりまでが赤ちゃんの体(臓器)が作られる時期(器官形成期)で、くすりなどの影響を受けやすい時期と考えられています。原則として妊娠中(特に器官形成期)は安全性のデータが少ないことから薬物療法は避けた方がよいです。

ですが、くすりの影響を過度に心配し、ママの体調が悪化するとその方が赤ちゃんにとっては影響が大きいのです。症状があれば、妊娠の可能性も含めきちんと診断してもらい、必要であればくすりも飲みましょう。そもそも赤ちゃんに影響するくすりはわずかです。

また、生まれる赤ちゃん100人中95~97人は、健康な赤ちゃんです。残りの3~5%は、誰しもが平等に持っているリスクです。心にゆとりを持ち、どっしりと構えましょう。

大丈夫かしら?



悩ましい腰痛・・・



おなかの大きくなってくると、腰痛に悩まされるママは多いのではないのでしょうか。これは、出産に備え骨盤の関節が緩むためです。その緩んだ関節を支えるために筋肉・腱・関節への負担が大きくなり腰痛を起こしやすくなります。痛み止めを飲もうとなりがちですが、痛み止めの成分には妊娠の後半に飲むと赤ちゃんがお腹の中にいるうえで必要な動脈管という大事な血管を閉じさせてしまう作用があるのです。痛み止めと言ってもその作用の強弱は色々ですので、薬剤師または主治医に相談してください。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索